平成 23 年度　事務事業事後評価調書（平成　22　年度事業）

整理番号	9 ― 12

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	中山間地域直接支払制度					
評価者	担当課名		産業振興課	担当係名		農務係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	主査
		氏名	石井弘道		氏名	宇野敏志
事業の概要	生産条件の不利な地域の一団の農用地に対し、耕作放棄地の発生を未然に防止し、多面的機能の確保を図る観点から農業生産条件の不利を補正するために交付金を交付し、集落単位で対象農用地等の維持管理に努める。					

全体計画	/期間限定複数年度
（平成 20 年度～ 24 年度）	

事業費		
国・道支出金	351,575	千円
地方債		千円
その他		千円
一般財源	123,341	千円
事業費計	474,916	千円

実施方法	■ 直営	民間委託	その他（　　）

第 5 期 総合計画（前期）	■ 登載事業	非登載事業	優先度	A

事業の位置付け		
政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～
基本施策	1	農業の振興
単位施策	5	農業による地域の活性化
事務事業の種類	■ 自治事務	法定受託事務
その他計画・根拠等	北海道中山間地域直接支払交付金実施要領	

事業費 実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
国・道支出金	70,823 千円	70,818 千円	70,293 千円	69,967 千円	69,967 千円
地方債	千円	千円	千円	千円	千円
その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
雄武町負担額（一般財源）	24,398 千円	24,361 千円	23,883 千円	24,204 千円	24,809 千円
合計	95,221 千円	95,179 千円	94,176 千円	94,171 千円	94,776 千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	事業参加農家の対象農用地
【抱える課題やニーズは】	本事業の実施が、耕作放棄地の発生を防止しており、本事業終了後の耕作放棄地等の発生数の増加
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	耕作放棄地の発生防止や農地を含めた周辺環境の整備を図る。
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	酪農環境の整備 農業生産の向上 就労意欲の向上

望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）

指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
① 集落協定の締結集落数	目標年度	平成22年度
	目標値	8 集落
	実績値	8 集落
	達成度	100.0 %
②	目標年度	
	目標値	
	実績値	
	達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
協定締結集落への交付金の交付	対象農用地の面積を基準とした補助（事業費の５０％国・２５％道・２５％町）

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	■ 義務的なもの □ 全部 ■ 一部	本事業の実施により、各集落ごとの課題に対する取組が行われており、環境整備がなされている。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■ 達成 □ ほぼ達成 □ 下回る	制度の目的どおり各集落が事業を実施しており、新たな耕作放棄地の発生もない。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 □ 事業費抑制 □ 人員削減 □ 時間短縮・作業軽減 ■ その他	中間年や年度別の評価を実施しており、評価内容からも効率的な成果が得られている。 事業実施要綱に基づき実施しており、効率的な事業の実施を行っている。

(4)事務事業の公平性

概ね公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □ 受益者負担がある ■ 受益者負担がない □ 受益が一部に偏る ■ その他	制度に基づき実施しており、受益者負担はないが、酪農業の振興のために実施しており、地域経済の発展につながるものである。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
計画どおり事業が実施されており、酪農環境の継続的な整備が図られている。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
引き続き同事業を実施することは、酪農経営における意欲向上につながり、また、酪農環境の継続的整備が図られていることから、酪農業振興に必要な事業である。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）